

古代エジプト	シュメール
アッカド	メソポタミア
古代ローマ	アッシリア
クレタ文明	ミケーネ文明
バビロニア	インダス文明

<p>シュメール(Sumer, Shumer, Sumeria, Shinar)は、メソポタミア(現在のイラク)南部を占めるバビロニアの南半分の地域、またはそこに興った最古である都市文明チグリス川とユーフラテス川の間で栄えた。</p>	<p>古代エジプトとは古代のエジプトの歴史的呼称ここで起きたエジプト文明は世界四大文明のひとつ。紀元前3000年前後に中央集権的な統一国家となる。通常、紀元前31年にプトレマイオス朝が滅亡しローマ帝国の支配下に入る前までの時代を指す。</p>
<p>メソポタミア(Mesopotamia、ギリシャ語で「複数の河の間」)は、チグリス川とユーフラテス川の間の中積平野であり、過去のペルシアの一部、現在のイラクにあたるメソポタミア文明はメソポタミアに生まれた文明を総称する呼び名で、世界最古の文明である。</p>	<p>アッカド(Akkad)は、メソポタミア(現在のイラク)南部を占めるバビロニアの北半分の地域、またはそこに興った最古の帝国南側にシュメールが隣接し、北西側にアッシリアが隣接している。シュメール文明を征服して、チグリス川とユーフラテス川の間を</p>
<p>アッシリア(Assyria)メソポタミア北部の地域、また、そこに興った世界帝国(本稿で詳述)1.の末裔を自称し、現代アラム語を話すネストリウス派のキリスト教徒。アッシリア人を参照。</p>	<p>古代ローマ(こだいローマ)は、古代にイタリア半島中部に位置した多部族からなる都市国家で、領土を拡大して地中海世界の全域を支配する世界帝国になったローマ市は、帝国の滅亡後も一都市として存続し、世界帝国ローマの記憶は以後の思考</p>
<p>ミケーネ文明(みけーねぶんめい)は、エーゲ文明のうち、ペロポネソス半島を中心に栄えた青銅器文明である。</p>	<p>クレタ文明(クレタぶんめい)は、エーゲ文明のうち、クレタ島で栄えた青銅器文明で、伝説上のミノス王にちなみ、ミノア文明ともよばれる。</p>
<p>インダス文明(インダスぶんめい、Indus Valley civilization)は、インド・パキスタンのインダス川及び並行して流れていたとされるガッガル・ハークラール川周辺に栄えた文明で、現在南インドを中心に暮らしているドラヴィダ人によりつくられたと推定される。</p>	<p>バビロニア(Babylonia)は、メソポタミア(現在のイラク)南部を占める地域、またはそこに興った王国(帝国)首都はバビロン。南半分のシュメールと北半分のアッカドを含み、北西側にアッシリアと隣接する。</p>

黄河文明	ペルシア帝国
ヒッタイト	フェニキア
アッシリア	

<p>ペルシア帝国(ペルシアていこく)とは、現在のイランを中心に成立していた歴史上の国家である君主の称号は、ペルシア語(イラン語)で「シャー」あるいは、王の中の王、「シャーハンシャー」と呼称され、日本語では通常、皇帝は用いられず、帝王と</p>	<p>黄河文明(こうがぶんめい)は黄河の中・下流域で栄えた古代文明</p>
<p>フェニキア(英語: Phoenicia)は、古代の地中海東岸に位置した歴史的地域名シリアの一角であり、北は現シリアのタルトゥースのあたりから、南はパレスチナ(現イスラエル)のカルメル山に至る海岸沿いの南北に細長い地域であって、およそ現在のレ</p>	<p>ヒッタイト(英:Hittites)は、インド・ヨーロッパ語族のヒッタイト語を話しアナトリア半島に王国を築いた民族ハッティの英語名で、旧約聖書の Hitti(ヘテ人、ヘト人)をもとにして、イギリスのA.H.セイスが命名した。また、この民族が建国したヒッタイト帝国(王</p>
	<p>アッシリア(Assyria) メソポタミア北部の地域、また、そこに興った世界帝国(本稿で詳述) 1.の末裔を自称し、現代アラム語を話すネストリウス派のキリスト教徒。アッシリア人を参照。</p>